

盤石なる「絆」と「財政基盤」の構築

…会員サービスと大学支援の充実化に向けて…

明専会会長 高原 正雄（機43）



新年おめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、新しい希望を胸によい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

故郷の九州は、一昨年4月の熊本大地震、そして、昨年7月の九州北部豪雨と、度重なる大被害を受けました。会員関係には大きな被害がなかったことは何よりでしたが、今でも多くの方が不自由な生活を送って居られることに心が痛みます。

昨年もまた、日本を代表する企業の不正事件が相次ぎ発生しました。最も大切なお客様の信頼を裏切つて、目先のコストや納期に走るのとは明らかに優先順位エラーであります。日

本ものづくり「ジャパン・アズ・ナンバーワン」がもはや地に落ち掛かったという感が悲しくなります。安定経済成長が続いたあと、1991年からの「失われた20年」の間に経済のみならず、経営者や現場のレベルも劣化してしまつたのだと思います。さらには、政治家の低レベル言動やマスコミの偏向報道、世界の指導者たちの自国最優先主義がますます拡散されてきました。

そういった状況下で新しい年を迎えています。私どもは新たな希望と目標を定め、明専会の発展に向けて突き進んで参りたいと思ひます。

まず、明専会の100周年を契機に発足した「明専会基盤強化委員会」の2年間の検討と活動により、会員の絆強化の兆候と会の財政基盤構築の方向が具体的に見えつつあります。

会員の絆強化の兆候について、具



図1 明専会の伝統的な絆の好循環

体的には、会員の新しい絆として、

学生会員の明専会への帰属性や女性会員の明専会活動、若手会員の自律的交流が目立つようになりました。

また、年長会員の啓発活動は、従前に倍する活発なものになっております。加えて、九州工大と明専会の組織的に連動した事業活動は文科省からも高く評価されています。さらに会員の絆のツールでもある明専会報の質は近年かなり高くなってきています。加えて、新しく展開したFacebook（明専会公式Facebook）

の活用によるコミュニケーションも著しく増えてきました。同窓の絆が

らに発展的に前進させ盤石な会員の絆を構築させていきたいと思ひます。会の財政基盤構築の方向性については、従前の会費納入会員の勧誘活動の反省を踏まえ、新たに新社会人キャンペーンを展開してきました。加えて、入学時終身会費制の導入検討などを精力的に進めておりますが、これは会費制度の大きな変革でもあり、その実現に向けて大学と協調して全力で取り組みたいと思ひます。

図1は、皆様に何度もお示ししておりますが、明専々九州工大へ至る永い歴史の中で継承された明専会会員の「強い絆」と「燃えるような母校愛」の伝統は、是非とも次世代へと繋げていかねばなりません。現執行部は、本年も一丸となって、盤石なる「絆」と「財政基盤」の構築に向けて活動を進めて参ります。会員の皆様におかれましては、倍旧なるご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

末筆になりましたが、社会の平和と皆様のご繁栄、ご多幸を祈念して、年頭のご挨拶といたします。

（いすゞ自動車・理事）